GCDur化学療法（ゲムシタビン＋シスプラチン+デュルバブマブ）1コース目を受ける患者さんへ　　【患者さん用クリニカルパス】

ＩＤ：@{Patient.ID}　　患者氏名：@{Patient.Name} さん

	入院当日（化学療法前日）	化学療法施行日	化学療法開始～退院まで	退院日
	月　　日	月　　日～　　月　　日	月　　日 ～　　月　　日	月　　日
目標	治療の経過が分かる	予定どおりに治療が終了する	症状出現時には適切な対処が受けられる。	退院時指導の内容が分かる
説明・指導	入院生活について説明します。 薬剤師より化学療法の薬剤について説明します。 予測される副作用および予防法・出現時の対処方法について説明があります。	点滴中、針の入っているところが痛くなったり、腫れたり、重苦しくなったら、すぐに教えて下さい。	体調の変化時はお知らせください。	退院指導（生活指導や次回外来再診日の連絡）を行います。（「がんの薬物療法を受けられる方へ」のパンフレットを使用し指導を行います。抵抗力が弱っているので退院後も感染予防（手洗い・うがい）が必要です。）　次回から利用する外来化学療法室のご案内・説明をします。 入院で化学療法を行うのは今回だけで、次回から1日目のみ入院で化学療法を行い、8日目からは外来化学療法に移行します。
治療 処置 点滴	採血の結果によって点滴の針を入れ、点滴を行うことがあります。点滴終了後は点滴の針を留めておきます。  	抗癌剤は、膀胱癌に効果があるゲムシタビンとシスプラチンという２種類の薬とデュルバブマブという免疫チェックポイント阻害薬を使用します。 **スケジュール（１日目、８日目）** ① ３０分間 ゲムシタビンという抗癌剤を点滴します。 **スケジュール（1日目）** ① 1時間 デュルバブマブ（イミフィンジ）という免疫チェックポイント阻害薬の点滴をします。 ② 30分 パロノセトロン、アロカリス、デキサートという吐き気止めの点滴をします。 ③ 2時間 シスプラチンという抗癌剤を点滴ます。 点滴は１３時間行います。尿量が少ない場合は、利尿剤の投与を行います。吐き気が強い場合は、すぐに教えてください。症状により点滴や注射をして症状の改善を図ります。	《抗癌剤の主な副作用について》 発症時期による症状と対処方法について、以下のものがあげられます。 【投与直後から数時間】 発疹・発赤・顔のほてり・かゆみなどのアレルギー症状　→　抗アレルギー剤投与 【投与から１～２日後】 吐き気・嘔吐・食欲不振などの消化器症状　→　吐き気止めの注射、内服薬の投与 【投与から数日間経過してから】 白血球減少　→　G-CSF製剤（白血球を増やす薬）を注射 貧血　→　輸血（頻度は稀です） 血小板減少　→　血小板輸血（頻度は稀です） 【投与から１～２週間経過してから】 脱毛　→　かつらやバンダナなどを使用 味覚の変化　→　味付けの工夫、うがいや亜鉛製剤の内服	
検査	入院後血液検査を行います。	化学療法を開始して3日目、6日目に採血を行います。	採血をして、骨髄抑制(白血球減少、貧血、血小板減少）の有無を確認します。 白血球減少が認められた場合は、Ｇ－ＣＳＦ製剤(白血球を増加させる薬）を注射します。	採血をして、骨髄抑制(白血球減少、貧血、血小板減少）の有無を確認します。骨髄抑制が許容範囲内であれば退院となります。 白血球減少が認められた場合は、Ｇ－ＣＳＦ製剤(白血球を増加させる薬）を注射し、退院が延期となることがあります。
内服	現在飲んでいる内服薬の確認をします。内服薬は基本的に継続内服とします。			
食事	基礎疾患（糖尿病・高血圧など）に応じて、治療食をお出しすることもあります。	 吐き気がでることがあります。食事内容を変更したいときはお申し出ください。 		
生活・行動	病棟内を自由に歩いてかまいません。			退院手続きが完了するまで、病室でおまちください。
清潔	シャワー浴ができます。			退院後は入浴できます。
その他	入院後に熱が出た場合は、化学療法を延期していったん退院していただくこともあります。 入院に付き添いは必要ありません。 			◎１コースを２８日間として、以下のスケジュールで合計＿＿コース行う予定です。 １コースの投与スケジュール ゲムシタビン ●(1日目) ●(8日目) シスプラチン ●(1日目) ▲(8日目) デュルバルマブ ●(1日目) ※８日目のシスプラチンについては、別途ご説明いたします。

注）予定は現時点で考えられるものであり、今後検査等を進めていくにしたがって変わることがあります。

岩手医科大学附属病院
泌尿器科